

思いやりを大切に

—看護の原点を見つめ直して—



看護部長 川本 かよ子

松山市民病院は今年、永頼会設立50周年の記念すべき年となります。この大切な節目にあたり、2月から看護部長を務めさせていただいております。これまでの地域医療連携室では、「顔の見える連携」のもとで関係各位の皆様には大変お世話になりました。

4月に新南(S)棟の第1期がオープンいたしました。病院の受付フロア前の中庭はウッドデッキになっており、木陰に立ち木漏れ日を浴びると心地良く、患者さんから好評をいただいております。病棟のテラスの植栽も患者さんや職員が癒しを感じられる空間となっております。

今年の病院のスローガン「変革と育成」は、まさに看護部新体制の目標であり、具

体的な取り組みを開始いたしました。当院の理念である「地域住民のために存在する」に添って土曜日も午前中の外来診療を継続しています。また、4月より病棟・ICUの勤務体制を4週8休と整備し、夜間・休日の管理体制の充実を図るため、看護管理当直・日直を再開いたしました。

看護部運営委員が業務・教育委員会などの活動をまとめ、情報共有とスタッフ育成に注力できるよう各種委員会担当メンバーを再編いたしました。電子カルテも稼動となり、職員一同スキルアップに取り組んでおります。

当院は2次救急の輪番制を担っております。今回、ER・ICU・急性期病棟・地域包括ケア病棟・訪問看護課等で看護師を再

配置し、患者さんの状態や病期に応じた多様な看護の提供ができる体制づくりに努めました。部署の異動にあたっては、協力いただいた看護職員に感謝いたします。

新入看護師を迎えフレッシュな気持ちを込めて、「思いやりを大切に」を合言葉に「新人育成」のスタートを切りました。看護の原点を見つめ直し、一人ひとりが患者さんやご家族に向き合える喜びとともに、職員が働きやすい環境を整えたいと思います。

今後とも、地域住民の方々が安心して診療が受けられるように、看護部としてきめ細かく対応してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

医療秘書課が新設されました

医療事務部 医療秘書課
主任 岡田 浩之



医療クラークの業務内容の見直しを行い、医師との密な連携を図り、医師事務作業を軽減することを目的として、今年2月に医療秘書課が新設されました。現在、20名で医師事務作業補助を行っています。

発足に際し、医師や関係各部署、医療クラークからヒアリングを行い、スムーズな運用が行えるように検討しました。4月からの電子カルテ稼動に伴い、業務内容が変更となったため、当初は少し混乱しましたが、現在ある程度業務が確立できています。

医療クラークは、医師（歯科医師を含む）の指示のもと、診断書等の文書作成補助、診療記録への代行入力、医療の質の向上に役立つ事務作業（診療に関するデータ整理、院内がん登録等の統計・調査、医師の教育や臨床研修のカンファレンスのための準備作業等）ならびに行政上の業務（救急医療情報システムへの入力、感染症サーベイランス事業に係る入力等）を行います。医師の事務作業を軽減することにより、医師は今まで以上に診療に専念することができます。



患者さんにとって、より良い医療が提供できるように、また今年の当院のスローガンである「変革と育成」が達成できるよう、努めてまいります。

肺ドック・A B C 検診 始めました

医療事務部 ドック・健診課 課長 井藤 政樹

人間ドックをご利用いただくのは職場や家庭において働き盛りの方が多く、短時間での受診を望まれる声が寄せられていました。

そこで今年度より「1日ドック」を基本とし、大腸内視鏡検査を追加した「2日通院ドック」を設けました。これまで大腸の検査を受けるには2泊3日を要してましたので、時間と費用を大幅に節約できるようになりました。

コンパクトにするだけでなく、広いニーズにもお応えできるよう「脳ドック」「レディース検診（マンモグラフィ・乳房超音波検査・子宮頸がん検診のセット）」を設け、さらに今年度より「肺ドック」「ABC 検診（胃がんリスク検診）」を始めました。

「肺ドック」は喫煙者に限らず、COPD（慢性閉塞性肺障害）など呼吸器疾患の発見にも有効ですので、非喫煙者の方にもおすすめします。

「ABC 検診」は血液検査だけでできる胃がん検診です。検査結果により、胃がん発症のリスク度や今後の対応方法も示されます。

腫瘍マーカーなどオプション検査もご用意し、目的に合わせた組み合わせが可能ですので、お気軽にお問い合わせいただき、ぜひ受診をご検討ください。

(健診課直通 TEL: 089-915-2077)

